

新年“^{つちのえいぬ}戊戌”の年は、^{つちのえいぬ}分岐点の歳

平成30年“^{つちのえいぬ}戊戌”の年を迎えました。今上天皇の退位が来年4月30日、翌日5月1日新天皇が即位する。改元もこの時となる見込みで、平成も30年、本年が区切りの年となります。

戊（つちのえ）の「植物の成長が絶頂期にある」と、戌（いぬ）の「草木が枯れる状態を表す」というと比和の関係、今まで頑張ってきた事が、見事に花開き、頑張っ^てこ^なか^った人は現状維持からより悪い状態になるという、所謂、結果が明確になる年、『分岐点』と言われています。

農業関連にとっては、本年50年近く続いた生産調整が見直され国の関与が大幅に後退します。農協改革も集中実行期間の最終年です。不安・懸念はマックスですが、切っても切れない関係だった「水田と農協」の分岐点、十干十二支的に言えば、結果が明確になる年なのかもしれません。

強いられる改革よりも自ら取り組んできた改革こそが結果であるとしたい。「水田と農協」持続可能な姿として次代につなげていく。その一助となるよう開発機構も取り組んでいきたいと思^います。「地域農業の振興・地域の活性化・JAの革新をサポートする研究開発機関」として、本年も宜しくお願^いいたします。

（常務理事 浦野邦衛）

【地域開発部】

日本協同組合学会(第37回大会)参加報告

9月22日から24日の3日間の日程で開催された日本協同組合学会の第37回大会(徳島大会)に参加したので、大会シンポジウムの内容をご紹介します。

日本協同組合学会は、研究者と実践家の協力によって協同組合運動のあり方について学術的に研究することを目的としており、研究者だけでなく、各種協同組合の第一線で活動中の実践者が多数参加しています。大会シンポジウムでは、『新たな社会観の構想と非営利・協同のネットワークの課題を考える』をテーマに、第1報告「コミュニティ媒介者としての協同組合の位置と役割ー協同組合実践・理論の課題」、第2報告「協同組合間協同：理念を実践する」の2報告と、協同組合間協同の実践に向けて、実践者を交えたパネルディスカッションが行われました。

第1報告では、①協同組合の認知度の向上、②協同組合とコミュニティ(地域づくり)、③協同組合間協同、④協同組合と教育(学びあい)の4つの視点から論点整理が行われ、地域の暮らしから生まれた課題・ニーズに対して、各種協同組合が業種の壁を越えた協同ネットワークを構築することが提起されました。

第2報告では、これまでの協同組合間協同を①産消提携タイプ、②業務提携タイプ、③事業連携タイプ、④地域連携タイプの4つの形態に分類した上で、新たな形態として農協組合員が生協組合員に、生協組合員が農協組合員になって、例えば一枚の組合員カードで農協・生協間の相互利用を可能とする「組織連携タイプ」を促進することが提起されました。

最後に座長から、JAが協同組合間協同を進める上で一つの方向性として、非農家の地域住民も参画しやすくするために小さな協同組織を外部に作ってネットワーク化することが提起されました。こうした方法は、協同組合の認知度や活動への参画意識の向上に繋がると考えられることから、「なくてはならないJA」に向けた取り組みを進める長野県においても有効であると感じました。
(上席研究員 山内 哲人)



大会シンポジウムの様子

【人材銀行局】

平成 29 年度 派遣等職員研修会を開催しました (11 月 16 日(木)・長野県JAビル・午前 10 時～)



研修会は、昨年を上回る 89 名の参加を得て開催いたしました。

午前中は、JA長野中央会 教育部部長 高野良彦講師より「JAグループをめぐる情勢について」とりわけ、農協改革について講義を頂き、JA自己改革についての理解を深めました。また、例年恒例となっている長野南年金事務所による研修では、上席年金給付専門職の中村正彦講師より、「ライフステージと年金」の講義を実例に沿った内容で研修をして頂き、気づき難い年金情報を再確認することができました。なお、12 時から開催しました年金相談会では、4 件の相談がありました。

午後はまず最初に、JA長野健康保険組合 健康推進部健康推進課 金田俊彦講師による「健康増進ツール P e p U P」の研修をして頂き、自分の身体の状況をデータ的にも正確に知ることが、健康維持につながることを学習しました。

研修会の最後に、昨年リオ五輪シンクロナイズドスイミング チーム銅メダルを獲得された箱山愛香講師の「チームワークを大切に仕事の目標を達成する」講演を頂き、「自分の夢や目標は明確に持つことの大切さ」「今の自分を今超える努力の重要さ」等を学ばせて頂き、研修会全体を通し個々のキャリアアップにも繋がる有意義な研修内容となりました。

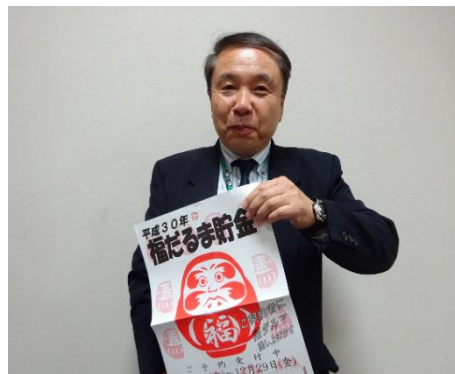
職員紹介

渉外活動+棚田の保全+登山+温泉めぐり=充実 !!

話している時の笑顔が人柄を表す渡辺俊明さん。

JA信州うえだ東部地区事業部信用課で渉外担当として活躍され6年となります。

地域の財産である日本の棚田百選「稲倉棚田」の保全活動に携わり、草刈り隊副隊長として年間15回ほど出動されているとのこと。休日は奥さんとの登山や温泉手形(物見湯産手形)を利用した温泉めぐりとワークライフバランスもバッチリです。



～編集後記～

新年あけましておめでとうございます。

年末からの厳しい寒さが続く毎日ですが、関係各位の皆様におかれましては、健康に留意されご健勝のこととお喜び申し上げます。昨年に引き続きまして本年も、ご指導、ご協力をお願い申し上げます。年度末を迎え当機構も、日々の事業推進の傍ら、新年度に向けて事業計画の検討を進めています。皆様のご意見、ご要望をいただけたら幸いです。(Y)

<発行所>

一般社団法人 長野県農協地域開発機構

長野市大字南長野北石堂 1177 番地 3 JA 長野県ビル 11 階

TEL 026 (236) 3500 (代表) /FAX 026 (236) 3505